

「言葉」と社会

—陳腐に思える「言葉」の背景を探ることで社会の「今/これから」を自分で考える力をつける—

原田直枝

(研究室 Q6010)

zhizhi@nanzan-u.ac.jp

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

世の中のたいていの情報は「言葉」で伝えられるものであり、その「言葉」がそのコトに当てられる意味や背景が必ずあるのですが、人は、ややもすれば日常の忙しさに紛れ、自分の力で吟味することを怠りがちです。そのまま、自律的に考え判断する姿勢をいつの間にか失ってしまうというようなこともあるでしょう。それが楽だ、それで構わない、という選択も当然あり得ます。しかし、自分は自分の頭で情報を咀嚼して、その判断をもとに行動する主体でありたい、と思う人へ。

既成の評判やイメージに左右されずに、情報(=「言葉」のかたまり)を自分で分析し、判断し、その結果を自分なりの行動に活かすための方法は、身につけられます。身につくまで苦労はしますが、さまざまな情報の意味や背景を自分で探る経験を積むことによって、長い人生の中で出会うさまざまなものごとに対して、想像力を伴う柔軟な思考で向き合うことが可能になるでしょう。そのポイントを簡潔に言い表してくれる一文を紹介します(高坂正堯『世界地図の中で考える』より)。

「明るみに出ていることの裏にも重要な事実があり、原則には例外があり、できごとには背景がある。」

本プロジェクト研究は、現代社会の諸問題を考えるのに、その事柄をそもそも人々はどう考え、取り組んできたのかなど事柄の背景や推移など時間的視野を取り入れることで、さまざまなヒントを得たり、考察の道筋を得たりすることをめざします。同時に、人それぞれの立ち位置が、物事の見え方や結論の仕方を左右することを理解して、その複雑さ・多様性をプラスに転じる考え方を身につけます。

授業では、情報(言葉)と向き合う際に必要なことを学び、日常、誰もが目にし耳にする幾つかのトピック(=言葉。例えばコロナ禍の下での「自粛を解禁」、「適切な距離」や、「〇〇界限」「ファスト〇〇」「日本は〇〇な国」など)を捉えて、「よく「〇〇〇」って言うけど、そもそもどういう意味?/どうしてそう言うの?/そのまま使っているの?」と少しアマノジャクな問いを立て、その言葉が社会で浮かび上がり、用いられる事情に関する情報を掘り広げていき、検討する力を養います。特に、そのトピック(言葉)の「そもそも」や「もともと」に関心を向けることを重視します。こうした学びをもとに、学生のみなさんは、各自が気になり、かつ、それが何を意味するのか理解したいという強い熱意を持てるトピック(言葉、話題)について上述のような取り組みを実践し、卒業論文を作成します。

2. プロジェクト研究の進め方

プロジェクト研究Ⅰ 文献への取り組み方法を学ぶ

社会の諸相について、それを切り取る言葉の背景から考える(共通文献取り組み) ⇒
「5. その他」参照)

受講生各自の関心(問題意識)の所在を探り、文献検索の準備をする

プロジェクト研究Ⅱ・Ⅲ 自分の関心(問題意識)を展開したい方向性をつかむ

社会の諸相について、それを切り取る言葉の背景から考える(共通文献取り組み) ⇒
「5. その他」参照)

受講生各自の卒論研究テーマと計画を探る

プロジェクト研究Ⅳ・Ⅴ 卒業論文のテーマと構想をまとめる

プロジェクト研究Ⅵ・Ⅶ 卒業論文作成作業をすすめる

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

このプロジェクト研究を希望する場合には、3年次 Q2 に開講する「総合演習 B」(担当:原田)を履修することが望ましい(やむを得ない理由で履修が難しい場合には相談してください)。また、3コースのいずれでも構わないが、本プロジェクト研究は文明論的視野での思考を重視する。特に、原田担当「東洋と文明」で示している資料収集・考察の方法はこのプロジェクト研究に直結するので、履修した上での志望が望ましい。ジャンルを問わず学科科目一つ一つを大切に受講していることが望ましい。

4. プロジェクト研究開始までの準備

日本を立ち位置として、現代の諸相を時間的・空間的視野で捉える思考に関心を持つこと。ネットだけでなく新聞記事やTVの報道を1日に1度はチェックして、疑問やひっかかりの持てる材料(正/負どちらでも構わない。「これは何だろう?」「いったい何の意味があるの?価値があるの?」「どうしてこんなことを言う(書く)の?」はたまた「これは面白い、もっと広めたい、もっと知りたい」など)を確保しておくこと。別途、3年次開始までに取り組んでおいてほしい文献を提示する予定。

5. その他

共通文献取組み例(2023、2022):『いつもの言葉を哲学する』にもとづき、日常に出回る言葉から社会の諸相とその背景を考える:①生産的な「批評」について②カタカナ語から日本社会の現在と今後を考える③「新しい生活様式」「ソーシャル・ディスタンス」などコロナ禍をめぐる各種フレーズから「言葉は誰のものか?」を考える。

共通文献取組み例(2020):「日本/日本人」論のこれまでと今:そこから現代の諸相に取り組むヒントが①日本は「東洋」「世界」の中でどんな自己像を描いてきた?②「日本」的視野の長所短所 etc.

例えば日本のことなら、江戸・明治期まで時間的に幅のある視野で検討した文献を読んで考えてみる方法もあり、と思う人歓迎。読み解きにくいこと覚悟で。

卒論テーマの例は、プロジェクト・アワーで紹介します。

6. 選考方法

面接と、予備登録時に提出する「志望動機」(所定用紙)により選考を行ないます。詳細は、別途掲示します。プロジェクト・アワー参加を1次選考他すべての選考で必須の前提条件とします。本プロジェクト研究を志望する場合、3回のプロジェクト・アワーのうち必ず1回は参加してください。